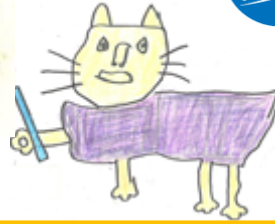


# は"とん



地域情報紙「はとん」は3ヶ月に1回発行します。  
ボランティア活動者の声やメッセージを届け、  
つながり(はとん)ます。  
題字・イラストは、高田馬場福祉作業所に  
通っている糯田(もちだ)麻美さんに描いて  
いただきました。

## 地域のつながりづくりの取り組み

新宿区社会福祉協議会は、おたがいさまで支えあうまちをつくるため、住民の皆さまをはじめ、町会・自治会、事業者、企業などとともに取り組んでいます。

また、住民同士がさりげなく気遣いあい、困ったときに遠慮なく助けを頼めるような地域づくり「ゆるやかな見守り」の支援を行っています。

若松町  
地区

### 西富久町会 「富久・さくらサロン」 立ち上げ支援とゆるやかな見守り

#### 西富久町会の取り組みについて

約3年前に西富久町会内に55階建ての富久クロスコンフォートタワーというマンションが完成しました。古くから住んでいる住民と、新しく入ってきた人たちとの繋がりを築くため、そして、いつまでも住み続けたいと思えるような地域にしたいとの思いから、町会副会長のK氏より、サロン立ち上げの相談が社協にありました。

K氏は、サロン運営に役立つ講座やサロン見学会に参加し、具体的なサロンのイメージを膨らませました。

町会、社協が、何度か打ち合わせを行い、4月のオープンに向けて、2月、3月に1回ずつ、プレオープンも開催しました。地域住民にも、少しずつサロンへの関心が広がってきています。



ウクレレ演奏 Hanohano  
しんじゅくの皆さん

#### サロン活動の理解と参加のお願い

プレオープン1回目は、若松町高齢者総合相談センター長による「認知症サポーター養成講座」、2回目は、同じ若松町地区で活動するサロン「さんぼみち」の代表S氏による活動事例のお話し、一芸披露のボランティア紹介として、ウクレレ演奏グループHanohanoしんじゅくの皆さんの演奏で楽しみました。

社協からは、サロンは、参加者が自由な発想で企画できること、そして、お互いに見守り合う「ゆるやかな見守り」の場ともなること等、地域の皆さんへ積極的な参加を呼びかけました。

富久さくらサロンは、4月26日にオープンします。

開所式では、フジモト新宿クリニックの院長 藤本進氏の記念講演「健康長寿のポイント 認知症予防と富久さくらサロン」を予定しています。是非、ご参加ください！



毎回、新宿いきいき体操  
を行います！

☆ボランティア活動に関する相談やお問い合わせは、どうぞお気軽にお寄せください☆

大久保ボランティア・地域活動サポートコーナー

若松町ボランティア・地域活動サポートコーナー

[場所]新宿区大久保2-12-7 大久保特別出張所内  
[開庁時間]月～金曜日 午前10時～午後5時

[場所]新宿区若松町12-6 若松町特別出張所内  
[開庁時間]月～金曜日 午前10時～午後5時

[TEL/FAX]03-3209-8851

[TEL/FAX]03-6380-2204

## 大久保 地区

### 「いぶき町会」理事会で、 ゆるやかな見守りへのご協力をお願いしました

#### いぶき町会の特徴

大久保地区には20の町会・自治会があります。いぶき町会は、大久保1丁目にある町会です。この地区は、中国・韓国・ベトナム・ネパールなど多国籍・多文化な店が立ち並び大久保通りに面しています。さまざまな文化に触れられるまちとして観光客で賑わい、外国人が多く住む地域です。同時に区の他地区に比べ一人暮らしの高齢者が多く、見守りや居場所づくり、生活支援などの課題が多い地域でもあります。

いぶき町会は地域のつながり作りのため、毎年8月に大久保小学校で「いぶき町会夏まつり」を開催しており、社協も協力しています。



「いぶき町会まつり」の様子



いぶき町会理事会の様子

#### ゆるやかな見守りの協力のお願い

大久保地域センターにて2月20日、いぶき町会2月定例会が開かれました。この日、社協の大久保地区担当より、町会の皆様に「ゆるやかな見守り」についてお話する機会をいただきました。

まず、大久保地区の特徴として、新宿区内で高齢者人口および一人暮らしの高齢者数が最も多いこと等を皆さまと共有しました。

その後、引き続き地域の気になる方を日常生活の中でゆるやかに見守っていただきたいこと、そしていつもと違う、何かおかしいと感じたときは社協へご連絡いただくことをお願いしました。

## 戸塚 地区

### あたとつながる、まちづくり とつか地区協フェスタに参加しました

戸塚地区協議会では、「誰にでもやさしいまち」をつくることを目的として、地域の方が必要とする福祉のあり方について考え、活動しています。

#### 地区協フェスタでの車椅子体験の様子

車椅子体験では、日頃から車椅子を利用している障害者の方とコミュニケーションを取りながら、会場内の床にあるゴミや段差、点字ブロック等の障害物を通り、自動販売機で飲み物を買ってもらうお手伝いを参加者に体験してもらいました。

車椅子体験の参加者には「助けてください」「助けますよ」を表すおたすけバッチを配布しました。

参加者からは、ブースで体験したような、ゴミを拾うことや飲み物を買う等簡単なことであれば、今後、まちで困っている人がいたら声をかけたいとの感想が多くありました。



車椅子体験の様子

#### おたすけマークプロジェクトの経緯と今後について

戸塚地区のバリアフリーを考える中で、「助けてください」「助けますよ」という関係をつくりたいと思ったことがきっかけです。

この戸塚のまちから何か広げてみようと考えました。戸塚第一小学校の子どもたちと協力し、デザインを考えました。

「こころのバリアフリー」とよく言いますが、「こころ」はなかなか見ることができません。だから、このマークで少しでもこころが見えるようにしたいと思っています。



おたすけマーク